

事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

1 事業者等の概要

氏名又は名称	富士電機株式会社					
代表者名	氏名	北澤 通宏	役職名	代表取締役会長		
主たる事務所の所在地	東京都品川区大崎一丁目11-2					
主たる事業の分類	大分類	E 製造業				
	中分類	28 電子部品・デバイス・電子回路製造業				
主たる事業の概要	半導体デバイスの開発・製造					
制度に該当する要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者				
	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	上記以外（任意提出）の事業者				
		基準年度実績	最終年度の目標	第一年度報告	第二年度報告	第三年度報告
原油換算エネルギー使用量	k1	34,976	34,536	34,824	36,948	39,181
エネルギー起源二酸化炭素排出量	t-CO ₂	67,443	66,251	67,167	71,187	75,501
その他ガス排出量合計	t-CO ₂	19,745	19,226	19,587	26,406	16,791
自動車の台数	台	21		21	19	19
自動車からの排気ガス合計	t-CO ₂	22				

2 基準年度、計画期間及び報告対象年度

基準年度	2019	年度
------	------	----

計画期間	2020 年度～	2022 年度
------	----------	---------

報告対象年度	2022	年度
--------	------	----

3 計画書（報告書）の公表方法等

<input type="checkbox"/>	ホームページ	
<input checked="" type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	半導体事業本部生産統括部品質保証部環境QMS管理課 TEL 0263-27-4937 （定休日を除く9:00-17:00）
<input type="checkbox"/>	その他	

4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

2030年度目標

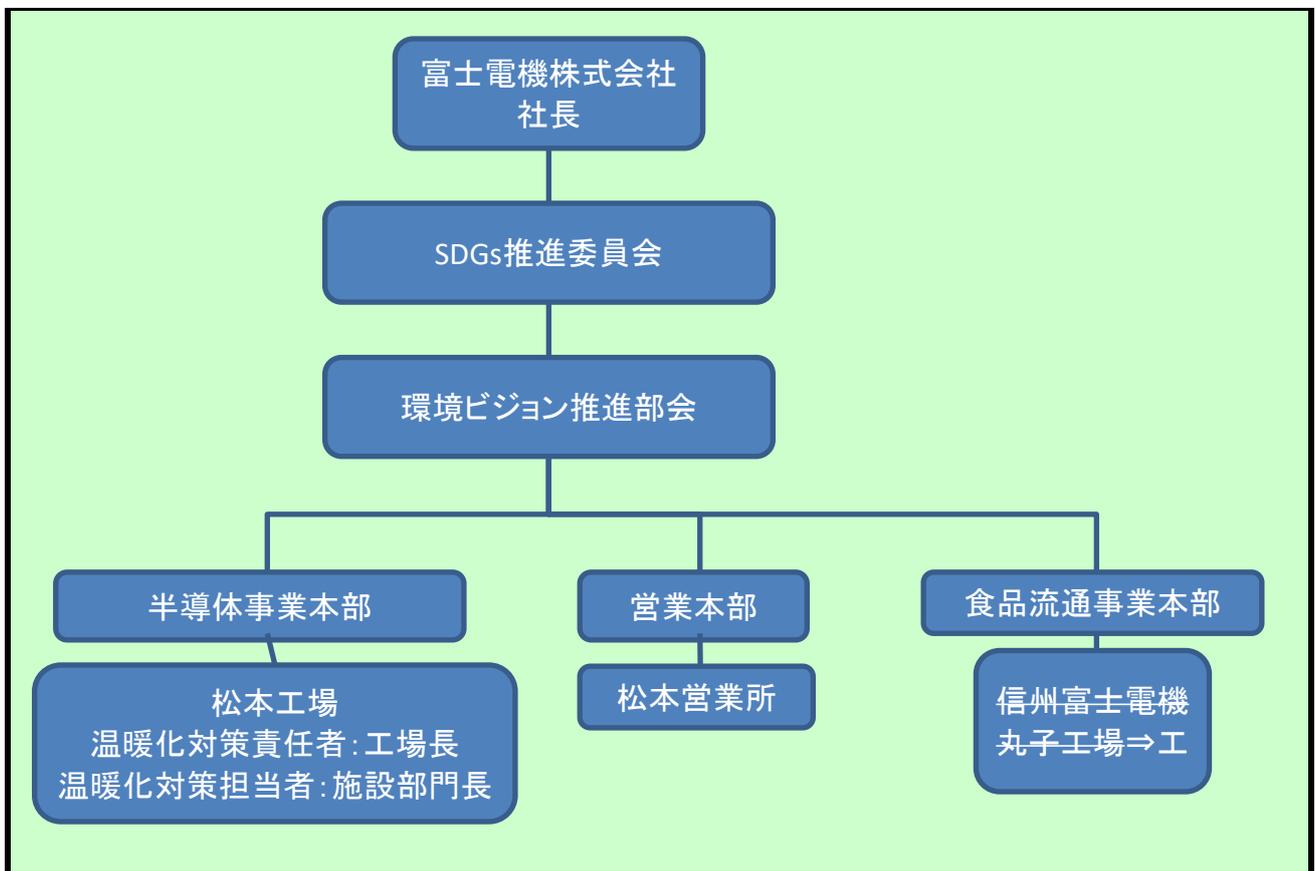
産業革命前と比較した気温上昇を1.5℃に抑えるため、以下の目標達成を目指します。

- サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量 (Scope1+2+3) 46%超削減 (2019年度比)
- 生産時の温室効果ガス排出量 (Scope1+2) 46%超削減 (2019年度比) (2013年度比54%削減)
- 製品による社会のCO2削減貢献量 5,900万トン超/年。

半導体事業本部環境方針抜粋

3. 当地区の事業活動に伴い、環境に著しい影響を与える可能性のある以下の重要課題に関して継続的改善に努めます。① 環境に配慮した製品の開発・設計・生産・販売の推進
③ エネルギー (電力、燃料) ・用水・化学物質 (薬品、ガス) の使用量削減による環境負荷の低減④ 生産に伴う温室効果ガス排出量の削減による地球温暖化対策の推進

5の1 温室効果ガス排出抑制のための組織体制



5の2 温室効果ガス排出抑制のための会議体等の名称及び開催頻度

SDGs推進委員会 (年3回開催)
環境ビジョン推進部会 (年3回開催)
環境ものづくり分科会 (年3回開催)
環境活動WG (年2回開催)
環境保護推進委員会 (年5回開催)

様式1号
(総括票)

6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	67,443	t-CO ₂	ウエハ生産枚数	1,074.00	単位	千枚
2019年度	調整後排出量	67,443	t-CO ₂	基準原単位	62.80	t-CO ₂ /	千枚
目標年度	目標排出量	66,251	t-CO ₂	目標原単位	60.93	t-CO ₂ /	千枚
2022年度	目標削減率	1.76	%	目標削減率	2.98	%	
目標設定に関する説明	松本工場は原単位を対前年比1%改善する。丸子工場、松本営業所は、基準年度排出量に対し年率0.5%改善を見込む。						
第一年度	排出量	67,167	t-CO ₂	ウエハ生産枚数	1,081.00	単位	千枚
	削減率	0.40	%	原単位	62.13	t-CO ₂ /	千枚
2020年度	調整後排出量	67,167	t-CO ₂	原単位削減率	1.06	%	
	削減率	0.40	%				
排出量等の増減理由	松本工場は原単位を年1%改善する目標を達成した。丸子工場は基準年度排出量に対して3.7%、松本営業所は5%の改善となった。						
第二年度	排出量	71,187	t-CO ₂	ウエハ生産枚数	1,217.00	単位	千枚
	削減率	-5.56	%	原単位	58.49	t-CO ₂ /	千枚
2021年度	調整後排出量	71,187	t-CO ₂	原単位削減率	6.86	%	
	削減率	-5.56	%				
排出量等の増減理由	松本工場は好調な半導体市場需給の影響を受けて大規模な設備投資を実施したためエネルギー使用量は増加に転じた。丸子工場は閉鎖、松本営業所は32%の増加となった。富士電機としては、生産数の増加が大きく、原単位は改善となった。						
第三年度	排出量	75,501	t-CO ₂	ウエハ生産枚数	1,347.00	単位	千枚
	削減率	-11.95	t-CO ₂	原単位	56.05	t-CO ₂ /	千枚
2022年度	調整後排出量	74,376	t-CO ₂	原単位削減率	10.74	%	
	削減率	-10.28	%				
目標の達成状況及び排出量の増減理由	前年に引き続き、好調な半導体市場需給の影響を受けて松本工場では、大規模な設備投資を実施したためエネルギー使用量は増加に転じたが、生産枚数も大幅増加となったため原単位は改善された。松本営業所は若干減少した。						

様式1号
(総括票)

6の2 エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	19,745	t-CO ₂	ウェア生産枚数	1,074.00	単位	千枚
2019年度	調整後排出量	19,745	t-CO ₂	基準原単位	18.38	t-CO ₂ /	千枚
目標年度	目標排出量	19,226	t-CO ₂	目標原単位	17.68	t-CO ₂ /	千枚
2022年度	目標削減率	2.62	%	目標削減率	3.81	%	
目標設定に関する説明	松本工場は、大口径ウェアへの移行により、除害処理実施率が向上するため、温室効果ガスの排出量の削減が見込まれる。						
第一年度	排出量	19,587	t-CO ₂	ウェア生産枚数	1,081.00	単位	千枚
	削減率	0.80	%	原単位	18.12	t-CO ₂ /	千枚
2020年度	調整後排出量	19,587	t-CO ₂	原単位削減率	1.41	%	
	削減率	0.80	%				
排出量等の増減理由	ウェア生産枚数は増えたが、除害装置設置率の高い大口径ウェアの投入率が増えたため、排出量は微減となった。						
第二年度	排出量	26,406	t-CO ₂	ウェア生産枚数	1,217.00	単位	千枚
	削減率	-33.74	%	原単位	21.70	t-CO ₂ /	千枚
2021年度	調整後排出量	26,406	t-CO ₂	原単位削減率	-18.07	%	
	削減率	-33.74	%				
排出量等の増減理由	ウェア生産枚数が増加したためと、除害装置増設が計画より遅延したため、排出量は大幅増加となった。						
第三年度	排出量	16,791	t-CO ₂	ウェア生産枚数	1,347.00	単位	千枚
	削減率	14.96	%	原単位	12.47	t-CO ₂ /	千枚
2022年度	調整後排出量	16,791	t-CO ₂	原単位削減率	32.15	%	
	削減率	14.96	%				
目標の達成状況及び排出量の増減理由	ウェア生産枚数は増加したが、除害装置増設の効果で排出量は大幅減少となった。						

様式1号
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	22	t-CO ₂			単位	
2019年度				基準原単位		t-CO ₂ /	
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	目標削減率		%	目標削減率		%	
目標設定に関する説明							
第一年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
2020年度	削減率		%	原単位削減率		%	
排出量等の増減理由							
第二年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
2021年度	削減率		%	原単位削減率		%	
排出量等の増減理由							
第三年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	削減率		%	原単位削減率		%	
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

7 重点対策の実施状況

段階	番号	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I～II	I-1	燃料使用量等の定期的な把握						
	I-2	エコドライブの励行						
III	III-1	次世代自動車の導入計画						
IV	IV-1	次世代自動車の導入						

様式1号
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	区分 番号	対策内容	計画		状況	
				実施予定 年度	削減見込量 (t-CO ₂)	実施 年度	推計削減量 (t-CO ₂)
1	エネ起	380752	照明のLED化	2020～ 2022	259	2020～ 2022	102.6
2	エネ起	330299	R22冷媒空調機交換	2020～ 2022	161	2020～ 2022	99.7
3	エネ起	330299	冷温熱源機器の更新	2020	42	2020～ 2022	88
4	エネ起	320301	蒸気の配管、トラップ部の蒸気 漏れの継続的調査、修理	2020～ 2022	95	2020～ 2022	99.8
5	エネ起	330202	冷水の共有化による冷凍機の効 率化	2020	53	2020	52.8
6	エネ起	360799	圧縮空気ドライヤの更新	2021	261	2021	103.8
7	その他 ガス	その他	除害装置の増設			2021～ 2022	7231
8	その他 ガス	その他	除害装置の増設			2022	191
9							
10							

9 自然エネルギー源利用設備等の導入計画及び状況

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度

様式1号
(総括票)

10 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出実績 (所、t-CO₂)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000k1以上	1	66,855	1	66,601	1	71,162	1	75,482
1,500k1以上 3,000k1未満								
1,500k1未満	2	588	2	566	1	25	1	19
合計	3	67,443	3	67,167	2	71,187	2	75,501

11 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出実績 (t-CO₂)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO ₂				
CH ₄				
N ₂ O				
HFC	376	394	423	301
PFC	15,271	14,672	21,323	13,147
SF ₆	3,766	4,109	4,361	3,185
NF ₃	332	412	299	158
合計	19,745	19,587	26,406	16,791

12 次世代車使用台数等の導入状況 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車				
電気自動車				
燃料電池自動車				
クリーンディーゼル自動車				
その他 (ハイブリッド等)	3	3	3	3
合計	3	3	3	3
自動車総数	21	21	19	19
次世代車導入割合	14.3	14.3	15.8	15.8

様式1号
(総括票)

1.3 交通対策状況

区分	実施内容
公共交通機関の利用促進	該当せず
自転車利用促進	一定範囲内のマイカー通勤の禁止, 自転車通勤への転換推奨並びに自転車通勤併用(晴天自転車, 雨天マイカー)推奨
来客者の交通対策	該当せず
物流の合理化	輸出梱包形態の変更による容積減, 輸送効率の向上

1.4 環境配慮活動状況

環境配慮活動	活動内容の詳細		
	実施内容		実施年度
<input type="checkbox"/> SDGs	長野県SDGs登録制度へ登録している		
<input checked="" type="checkbox"/> 環境マネジメントシステム	環境マネジメントシステムを導入している		1998
	名称	ISO14001	
<input checked="" type="checkbox"/> TCFD提言	気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 支持を表明している		2020
<input type="checkbox"/> グリーンボンド	グリーンボンドを発行している		
<input type="checkbox"/> ESG投資	ESG対話プラットフォームに登録している		
<input checked="" type="checkbox"/> SBT	SBT を策定済、またはコミットしている		2022
<input type="checkbox"/> RE100	<input type="checkbox"/>	RE100にコミットしている	
	<input type="checkbox"/>	再エネ100宣言RE Action へ参加している	
<input checked="" type="checkbox"/> その他	ゼロエミッションの維持 (廃棄物)		2004

1.5 自由記載欄

<p>地球温暖化を防止する技術、製品、サービスの研究・開発 構内建屋の効率的な利用のための実験室集約・レイアウト変更 廃棄物削減, ゼロエミッション (最終処分比率0.5%未満) の維持 信州省エネアシスタントへ社員1名を登録している。2022年度は診断への派遣要請はなし。 市水, 井水の使用量削減, 排水リサイクルプラントによる公共下水道及への排水量削減</p>
